

## (4) いしかわエル・ネット「オープンカレッジ」

### モデル事業報告

いしかわエル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会  
(石川県立社会教育センター)

## 1. はじめに

本年、第14回全国生涯学習フェスティバルまなびピア石川2002の石川県開催に伴い、「第9回高齢者社会参加フォーラム2002 in 石川」が実施された。この高齢者フォーラムの賛助講座として、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用することを試みた。また、当社会教育センターで開催された社教フェスタ（高齢者フォーラムの同時開催事業）の1プログラムとしても組み込むこととした。

今回のモデル事業について、社会教育センターで実施のシニアライフコーディネーター講座（対象おおむね50歳以上）、石川県民大学校大学院講師養成コースの受講生を中心に、一般県民にも呼びかけて聴講生を募り、実施した結果について述べる。

今回の報告が、今後エル・ネット「オープンカレッジ」を多くの県民が理解し、活用が進むための示唆となれば幸いである。

## 2. 概 要

### (1) エル・ネット「オープンカレッジ」番組視聴に関するアンケート調査

受講生が、どのような傾向の講座内容を希望するかを調査するため、エル・ネット「オープンカレッジ」のプログラムの中から5番組選び、アンケート調査を実施した。

#### アンケート調査

- 1 調査対象 県民大学校大学院受講生、シニアライフコーディネーター講座受講生 79名回答
- 2 調査日 平成14年7月30日～8月1日
- 3 調査項目（1つに○印）および結果

	番組	(人)
1	中高年の社会参加－生涯学習と地域教育－ お茶の水女子大学	23
2	「日本政治の常識と非常識」 東洋大学	20
3	「天才の栄光と挫折」 お茶の水女子大学	12
4	民法入門「だれが相続人になるのか」 中央学院大学	4
5	江戸時代に学ぶ 「江戸の光と影」（環境問題） 淑徳大学	20

#### 4 結 果

高齢者フォーラムにかかわるべく対象者によるアンケート調査の結果、高齢者の社会参加に関する内容を希望している。

#### (2) エル・ネット「オープンカレッジ」のリクエスト講座プログラムの活用

(1) のアンケート結果より、高齢者の社会参加に関する内容ということで、事務局（視聴覚協会）に相談したところ、年間プログラムには組まれていないが、リクエスト講座ということで今回の平安女学院大学学長 坂口順治先生を紹介していただいた。

#### (3) 遠隔学習システムを使って講師と受講者の双方向での質疑応答

1 日 時 10月11日（金）13：00～14：30

2 会 場 社会教育センター視聴覚鑑賞室

#### 3 事業内容

① エル・ネット「オープンカレッジ」の視聴

「ボランティア活動と社会参加」

講師 平安女学院大学学長 坂口 順治氏

② 質疑応答

エル・ネット「オープンカレッジ」講義の途中、及び講義後受講生から質問を東京会場にTV会議システムで送信する。それについて、講師がエル・ネットを通して、返答する。講座及び質疑はエル・ネット「オープンカレッジ」の講座として、当日、配信されている。

コーディネーター 金城大学短期大学部助教授 岡野 絹枝氏

〈講座の流れ〉

講義30分	質 疑 応 答 10分	休 憩 10分	講義20分	質 疑 応 答 10分	ま と め 10分
-------	-------------------	---------------	-------	-------------------	--------------------

4 参加者 24名（シニアライフコーディネーター講座受講生、  
県民大学校大学院講師養成コース受講生、一般県民）

### 3. モデル事業の成果

#### (1) 講座運営

この講座は、「第9回高齢者社会参加フォーラム2002 in 石川」の賛助講座であり当社会教育センターで開催された社教フェスタの1プログラムとしている。会場は、視聴覚鑑賞室で20席準備し、態勢を整えたところ、24名の参加を得られた。当館の他の部屋では展示、講座等の催しが行われていたが、イベントの1プログラムとしての活用に対し、新鮮な取り組みであると歓迎する感想があった。講座終了後の意見交換会で、ボランティア談義に花が咲いたが、このことから、分科会としての役割も果たしたと考える。

講座の流れは、エル・ネット「オープンカレッジ」による「ボランティア活動と社会参加」の前半視聴後に質疑応答、後半視聴後に質疑応答という形で行った。講師および受講者と質問者で成り立つ今回の講座は、途中場面が変わるため、休憩を挟んだことも加味され、集中できたとの感想があった。ただし、質問時間が短すぎるので突っ込んだ質問ができなかったとの不満もあがっている。その他、進行状況に関して、石川会場では進行表が準備されたが、他会場ではテロップ等で知らせる必要があったのではないかと推測される。

当日の参加者は、事前申込受付をした人には、テキストのコピーを配付し、講座内容を事前に把握してもらっている。先にテキスト内容を配付しておくことで、内容がよく理解できた、ポイントがわかり、メモがとれたとの声があがっている。

講師との質疑応答のなかで、生番組に参加しているということで、臨場感が得られ、参加意識が高まったようである。反面、緊張感が高まり、和やかさにかけていたとの指摘もある。コーディネーターの岡野氏は、大学の講座ということで、ある程度緊張感があった方がいいのか、和ませるべきか、少し迷ったそうである。講義中は、こちらが放映されていないので、受講者にリラックスするよう促すべきだったと反省している。



高齢者フォーラムで発表する石川県民大学校  
大学院受講生

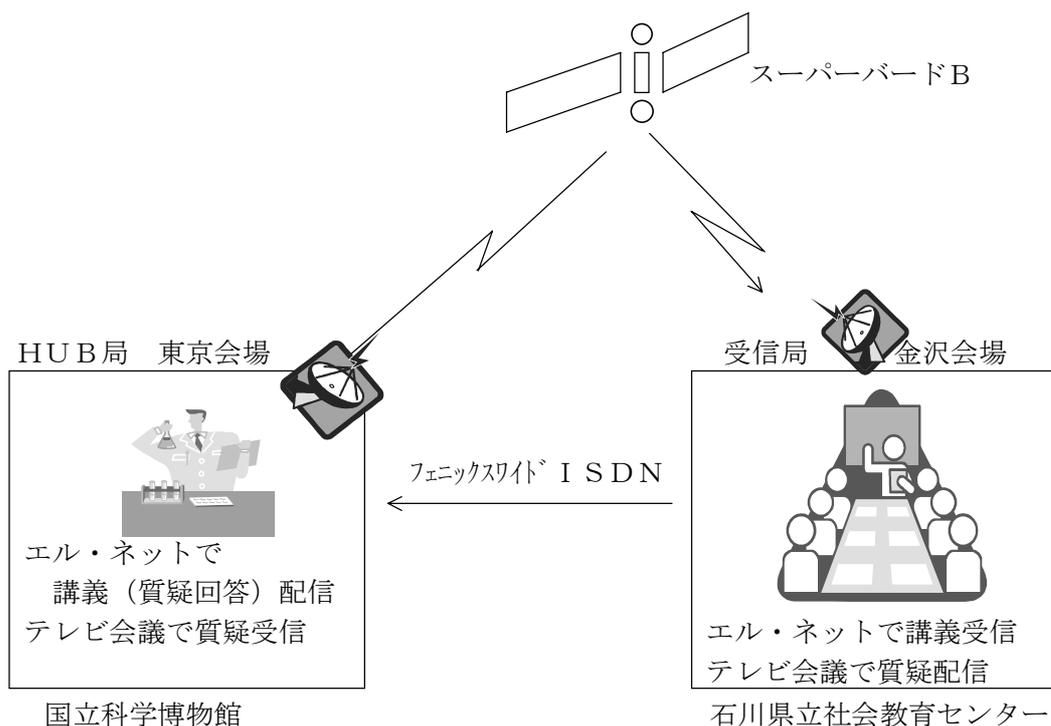


エル・ネットオープンカレッジ受講の様子

## (2) 遠隔学習システムの活用

遠隔学習システムを利用したスムーズな質疑応答が行われるためには、機器の操作はもちろんであるが、運営スタッフの役割を明確にしておく必要がある。エル・ネット「オープンカレッジ」における質疑応答を「いつでもどこでも」という観点に置くと、学習情報課を有する当社会教育センターでは、対応可能だが、市町村の受信局では今後課題が残る。

平安女学院大学、石川県立社会教育センター連携講座 概念図



### ポイント

- ・ 音声はエル・ネット、フェニックスワイドとループ状態に伝わらないよう音声切り替えを行う。

(3) 受講生アンケート結果 出席者：24名（20名分回収） ■ 最大数 単位（人）

① あなたの性別等をお教え下さい。

性別	男	女	無回答	住所	金沢市	津幡町	小松市	無回答
	9	11	4		17	2	1	4

年齢	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	無回答
	2	1	4	10	3	4

② この講座をどのようにしてお知りになりましたか？

A チラシ	16	(入手先 石川県立社会教育センター15 公民館1)
B その他	4	(知人)

③ 衛星放送による講座を受講した感想はどうでしたか。

ア よかった	16	イ どちらともいえない	4	ウ あまりよくなかった	0
--------	----	-------------	---	-------------	---

- 理由 (ア) ・情報や知識を得ることができる。 ・時間的配分がよい。  
 ・東京での講義が身近に受講できる。集中して受講できる。  
 (イ) ・初めて ・形式的枠組みを感ずる。

④ 生放送を利用して質疑応答ができる本日の講座は、いかがでしたか。

ア よかった	16	イ どちらともいえない	3	ウ あまりよくなかった	1
--------	----	-------------	---	-------------	---

- 理由 (ア) ・生と同じ ・質疑応答出来ると、生の講演の感覚があった。  
 ・参加形式である。質問ができた。  
 (イ) ・時間制限がありやむを得ないと思う。  
 ・話題が通り一辺のため私としてはひっかかりがなかった。

⑤ 講座内容を事前に配付しましたがそれについて、いかがでしたか。

ア よかった	15	イ どちらともいえない	4	ウ あまりよくなかった	0
--------	----	-------------	---	-------------	---

- 理由 (ア) ・確認できる。 ・事前学習が出来てよい。  
 ・情報資料で心構えが出来る。 ・内容がわかる。  
 ・ポイントが解りメモが取れる。  
 ・講義内容を知ることが出来、問題意識をもって受講できた。

⑥ 質問時（テレビ会議システム）の画面の画像はどうでしたか

ア 見やすかった	16	イ どちらともいえない	4	ウ あまりよくなかった	0
----------	----	-------------	---	-------------	---

- ⑦ テレビ会議システムの利用について御提言があればご記入下さい。
- ・時間が厳しいので、少し間がほしい。
  - ・回数があっても良い。
  - ・初めての体験
  - ・会議システムを有効化するには今少し時間が必要かと思う。

- ⑧ 高齢者フォーラム（MRO会館）には参加されましたか。

ア 参加した	4	イ 参加しなかった	16
--------	---	-----------	----

- ⑨ 高齢者フォーラムの1プログラムとしての本日の講座はいかがでしたか。

(参加の有無にかかわらず)

ア 適していた	8	イ どちらともいえない	7	ウ 適していなかった	1
---------	---	-------------	---	------------	---

理由 (ア) ・講義がよく聴けた。

(ウ) ・むづかしい。

- ⑩ 社教フェスタの中の1プログラムとしての本日の講座はいかがでしたか。

ア 適していた	18	イ どちらともいえない	2	ウ 適していなかった	0
---------	----	-------------	---	------------	---

理由 (ア) ・ボランティア活動を続ける勇気が強まった。

・ボランティア活動の基本が理解できた。

- ⑪ イベントの1プログラムとしてエル・ネット「オープンカレッジ」を利用することについてどう思いますか。

ア よい	16	イ どちらともいえない	3	ウ あまりよくない	0
------	----	-------------	---	-----------	---

理由 (ア) ・現代の先をいく。

・新鮮な取り組みで大歓迎です。

・多少の緊張感が持つことができる。

- ⑫ 今後エル・ネットオープンカレッジを利用した講座を受講したいと思われますか。

ア 思う	15	イ どちらともいえない	3	ウ 思わない	1
------	----	-------------	---	--------	---

アと答えた方は、どんな内容の講座を望みますか。次から選んで○で囲んでください。

(複数可)

郷土の歴史・伝統	5	政治・経済	5	産業職業	1	自然環境	4
高齢化問題・福祉	11	医療・健康教育	6	教育・文学	6	国際理解	3
スポーツ・趣味	5	今日的な問題	5				
その他 どの分野でもタイムリーに結びついているもの。少し将来の見えるもの。							

- ⑬ 番組としてご覧になった感想として、以下の問いにお答え下さい。

Q1「放送番組」の進み方

遅かった	やや遅かった	適当だった	やや速かった	速かった
2	1	11	3	0

Q2 放送された内容で聞き逃したと思う箇所はありましたか？

全くなかった	少しあった	かなりあった
5	14	0

Q3 放送された内容で再視聴したい箇所はありますか？

まったくない	少しある	かなりある
4	10	3

Q4 放送で使われた各種演出（字幕やパネル、取材映像）は、講義内容に合っていましたか？

全くあっていない	どちらかというと合っていない	どちらでもない	どちらかというと合っている	よく合っていた
0	1	3	5	8

Q5 放送中に登場した講師や出演者の話し方について、どのように感じましたか？

(話し方)

聞き取り難かった	どちらかというと聞き取り難かった	聞き取れた	よく聞き取れた
1	0	6	13

(内容)

わかり難かった	どちらかというとわかり難かった	わかり易かった
1	3	16

Q6 画面が単調だと感じましたか

まったく感じなかった	少し感じた	単調だった
10	9	1

Q7 日ごろ、教養・教育番組（テレビ）をどれくらいみていますか？

まったく見ない	時々見る	よく見る	連続してみている番組がある
0	13	6	0

Q8 「視聴された放送番組」についての良かった点や改善点

8-1 良かった点

- ・今時の社会・ニーズのある話題。
- ・細やかに解りやすく勉強になりました。
- ・ボランティアについて非常に解りやすく講義を聴けて、これからも学びたいと思った。
- ・前半と後半に分かれていて、集中できた。
- ・毎日の生活と近辺からの情報など勉強することが多くありました。
- ・地元でよい生番組に出席できたこと。講師の先生の表情・語り口が大変好感があった。
- ・事前学習がよかった。

8-2 改善点

- ・体験の話が中心であったが、掘り下げ、必要と思う。
- ・画面にもっと変化又ボランティアの写真などを見られると良かった。

- ・和やかさが足りないように思いました。
- ・プログラムを画面で表示するとわかりやすい人もいた。

### 8-3 その他

- ・今度の聴講を楽しみにしています。
- ・もう少し具体的に良かった悪かった事例をお聞きしたいと思いました。

#### ⑭ 講座全般についてご意見ご感想があればお書き下さい。

- ・ボランティア活動は今や時間が余ったら参加するもので、社会生活を営む上で必須、欠かざるべきものという観点に踏み込んだ話をすべきかと思いました。
- ・実践を基にした内容で、しかも高度の活動を聞かせてもらった。
- ・新聞等で見かけましたがよくボランティア活動を納得しました。
- ・金沢にいて遠い東京とか京都とかの有名な先生の講義が聴け、質疑応答もできて誠に結構でした。
- ・会場全体が少し緊張気味で、もう少し気易い雰囲気がほしいと思いました。
- ・良かったです。
- ・ボランティアについてもっと深く学んでみようと考えている。ありがとうございました。



熱心な受講生



講座後意見交換会

## 4. 今後の課題

モデル事業実施委員会ならびに講座終了時に行った受講生との意見交換会での意見を集約した。

- ・エル・ネット「オープンカレッジ」は、時間、距離をなくしてくれる素晴らしいものである。テーマの設定により、様々のイベントや研究会の分科会として活用可能である。専門性を追求する講座のみならず生活に密着した内容等、一般の方がわかりやすい内容も組み入れるなど、大学側にも工夫が欲しい。
- ・もっと気軽に受信可能な場所が増えればよい。施設はあっても活用がなされていないのが実状である。電話をかけて質問ができる、という状況から一歩踏み込んでテレビ会議システム利用ということになると事前準備を充分にする必要があり、公民館等では職員

の関係もあり、対応しにくい面がある。技術力を投入すればするほど経費もかかり、その点も問題である。できるだけ簡単に対応できるようにする点が課題である。

- 機器の整備がまだまだであるため、「いつでもどこでも誰でも」といったエル・ネットであるが、当センターでできることが各市町村教育委員会・公民館等の社会教育施設で可能なのかといった問題をクリアしなければならない。
- 生涯学習（社会教育）社会における認識の高まりや変化にどのように対応できるかを考え、「県民大学校」にエル・ネット「オープンカレッジ」の講座を取り組むことができないかという試みもおもしろいのではないか。大学と地域のネットワークづくりに貢献できるかもしれない。
- 放送大学とエル・ネット「オープンカレッジ」の区別がもっと明確にできれば、エル・ネットのソフトが一般向けの親しみやすいものになるのではないか。
- インターネットとエル・ネットとの関連等Web上での学習形態が普及する可能性がおおきいとしたら、さらに広まるだろう。著作権の問題等どのような問題点があるのかを考え、クリアできるようにして欲しい。
- 多種多様な学習形態とメディアの発達によって、エル・ネット「オープンカレッジ」の可能性が問われているように感じる。

## (5) エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業

### 『しずおか連携講座』実施報告

「しずおか連携講座」実施委員会  
(静岡大学生涯学習教育研究センター)

#### 1. 趣 旨

エル・ネット「オープンカレッジ」において受講者がより一層参加意識を高め、学習効果を向上させる講義形態を開発するため、地方V S A T局間を結んでエル・ネットのもつ双方向性を活かした講座を企画・実施した。

#### 2. 計画および実施の経緯

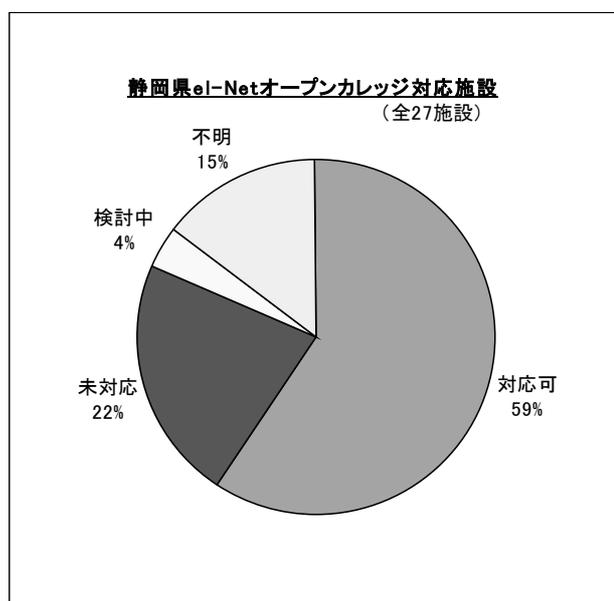
##### (1) モデル事業実施計画の策定

本モデル事業を企画した静岡大学は、エル・ネットの学習への可能性を探るため、実技・実習をとめない、かつ地域性を活かした講座として、従来から公開セミナーを実施してきた「やきもの考古学」をテーマに選んだ。また従来エル・ネットに関しては受信に偏っていた静岡地域からの情報発信を目指し、静岡県総合教育センター（V S A T局）、静岡県教育委員会生涯学習企画課（同施設所管部局）、同社会教育課（オープンカレッジ担当部局）と連携しながら、他地域の地方V S A T局とライブで結んだ講座とすることとした。

地方V S A T局として香川県教育センターと結んで講座を実施することとし、香川県教育委員会生涯学習課・久保博紀主任指導主事と連絡を取り合いながら、講義および実習（発掘陶器の復元作業）の収録・配信をした後、遠隔会場でも公開セミナーで使用したものと同一復元材料を用いた実習を行い、ライブによる質疑応答を行うこととした。

##### (2) 広報・広聴について

平成14年8月から実施委員会において、実施講座に関する広聴を行い、静岡県内のエル・ネット対応施設について聞き取りを行った。結果はグラフに見るように、オープンカレッジWebサイトに対応施設としてリストアップされいながら、地域の受講希望者に対応できるのは27施設中16施設（59%）に過ぎないことが明らかになった。未対応の理由としては、①職員研修用、②視聴スペー



すがない、③対応するためのスタッフがいない、④子ども放送局専用などの回答があった。

こうした結果から本事業ではエル・ネット自体の広報を行う必要を感じ、連携講座を行う香川県教育センター・静岡県総合教育センターだけでなく、県内東・中・西部の各会場の協力を要請し、広く参加者を募ることとした。

県内向けの広報は、センターWebサイトや公開講座リピーター向けにパンフレット（資料1）と本講座が一面で取り上げられたニュース（資料2：これは県内向け広報にも大変役立った）のコピー等を同封した約300通のダイレクト・メールにより行い、新聞でも取り上げられた（資料3）。

これらの広報活動と対応施設の協力により静岡県内4会場での開講が決定、また香川県教育委員会生涯学習課の事業推進により香川県教育センターでの開講が準備され、表1に見るようなオープンカレッジの開講体制ができあがった。開講後、実施委員会に問い合わせなどがあった2施設も加え、1回目29名、2回目40名の受講があった。

表1. 「やきもの考古学」受信会場・受講者数

	施設名称	第1回 (2/8)	第1回アンケート 回答数	第2回 (2/22)	第2回アンケート 回答数	備考
1	修善寺町中央公民館	6	4	1	1	静岡指定会場
2	静岡県立中央図書館	11	9	7	6	静岡指定会場
3	静岡県総合教育センター	3	3	5 (*3)	0	静岡会場 (*ライブの参加者)
4	雄踏町文化センター	5	5	6	6	静岡指定会場
5	掛川市立図書館	1	1	-	-	
6	浜北市生涯学習センター	3	-	3	-	
7	香川県教育センター		-	18	18	施)
	計	29	22 (回収率76%)	40	31 (回収率76%)	

### (3) 実施スケジュール等

今回の事業では、V S A T局間のライブによる双方向質疑だけでなく、大学独自収録、静岡V S A T局からの独自配信という主催地域の施設・設備を活かした事業が盛り込まれた。

平成15年1月～2月にかけて公開セミナー「やきもの考古学～須恵器・中世陶器の復元と初歩のやきものづくり」(全5回 1/26、2/1、2/2、2/9、2/16)が柴垣勇夫教授を中心に行われ、連携講座用としてその前半2回分を大学独自収録することとなった。

独自収録事業のために学長裁量経費を申請し、移動式エル・ネット受信装置とDVCPROビデオカメラを購入した。また、編集作業のためDVCPRO対応編集スタジオを持つ常葉学園大学の協力を得ることとし、同大学教官に運営委員として参加を要請した。

<収録および放送スケジュール>

- ・ 1月26日 (日) 「やきもの考古学Ⅰ」収録
- ・ 2月1日 (土) 「やきもの考古学Ⅱ」収録 (3～6日にも補助収録)
- ・ 2月7日 (金) 15:00～18:00 静岡県総合教育センターにて送出準備・リハーサル
- ・ 2月8日 (土) 15:00～16:50 「やきもの考古学Ⅰ」を静岡V S A T局より配信
- ・ 2月21日 (金) 17:00～18:00 静岡ー香川間双方向ライブのリハーサル
- ・ 2月22日 (土) 15:00～16:50 「やきもの考古学Ⅱ」を静岡V S A T局より配信した後、香川V S A T局と結んでリアルタイムで講師ー受講者間の質疑応答を実施。

※香川会場では、22日一日で行うこととし、以下のようなスケジュールで実施した。

13:10～14:20「日本陶磁史概説」（2月8日配信映像を視聴しての学習）

音声聞き取りにくかったため（財）香川県埋蔵文化財調査センターの専門職員に適宜ワンポイント解説を加えてもらい進行。（そのため講義前半部のみで終了）

14:30～16:00「陶片からの復元実習」

同センター・松本和彦主任技師、長井博志主任技師、西岡達哉専門員の説明により復元実習。15:00からはエル・ネット配信映像を実習と平行して視聴し学習を進めた。

16:03～16:50「ライブによる質疑応答」

講師と受講者との質疑応答の他、松本主任技師により香川県の出土陶器に関する報告もなされた。

<双方向ライブの様子>（放送画面より）



最後に、各会場での講座終了後アンケート調査を実施した（アンケート結果参照）。

### 3. 事業の成果と今後の課題

#### (1) モデル事業実施の成果

①エル・ネットを用い、遠隔地間で実技・実習をともなう講座が実施する可能性が確認できたこと。

エル・ネット「オープンカレッジ」がますます活性化するためには、講義形態の講座だけでなく、実技・実習をともなう講座も提供される必要があるが、今回はその可能性と課題を確認することができた。双方向ライブの放送を見ても送画像自体の品質は素晴らしく、陶器片の修復作業の映像を遠隔地間でやりとりするメディアとしては、テレビ会議システム、インターネット・ライブ、SCSなどの他メディアに対して大きなアドバンテージをもっていると実感した。ただ、こうした可能性を活かすためには、人材・機器・経験などで十分な余力を持つことが必要である。今回は静岡会場における関係者の協力、協議会からのサポート、香川会場における熱心な取り組み（専門家による補助講師等）があった、ようやく実施できたというのが実感である。

②大学独自収録・地方VSAT局独自配信・地方VSAT局間の双方向ライブなど地域のエル・ネット施設を最大限に活用した講座が実施できたこと。

③エル・ネット関連施設・機関における「オープンカレッジ」への認知度、意識を高めることができたこと。

今回のモデル事業実施で実感したことは、エル・ネットのもつ大きな可能性がまだまだ開かれていないということだった。このことは、大学、受信施設、VSAT局、エル・ネット所管部局に等しく言えることで、エル・ネット送信・受信設備の導入が、地域住民の学習につなげているのかを厳しくチェックする必要がある。端緒的なものではあるが、本事業はこの点について幾分なりとも貢献できたと考える。

#### (2) モデル事業実施にともなう問題点

①本事業の基礎段階となる大学独自収録事業について様々な課題を残したこと。

特に1月26日収録2月8日配信分では音声、映像とも十分な水準に達していなかった。独自収録のためには何よりも経験と時間、種々の準備が必要であると痛感させられた。2回目についてはその反省を踏まえ、実習場面の収録の後、音声をアフレコにより入れ直し、公開セミナー以外の場面の収録を数回にわたって行った。また、協議会からのサポートもあり提出ビデオテープの音声レベルの再調整を専門家にやっていただいた。アンケート結果を見ても、第2回放送分は第1回に比べ質を向上させることができた。

いずれにしても日程的に難しい場合、当初の計画にこだわらず収録日程を前倒しするなど柔軟に対応することが必要である。映像・放送関連のサークル学生、関連領域の学科などをもつ近隣の大学・専門学校等との連携組織を作っておくことも有用であろう。

②連携講座ライブ会場と一般視聴会場との格差

今回の連携講座では静岡会場と香川会場をライブで結んだだけでなく、公開セミナーで使用された同じ教材（陶器片、復元材料）が香川会場にも送られた。通常、モデル会場と一般視聴会場との違いはライブによる双方向質疑が可能かどうかであり教材自体は同じだ

が、今回は教材レベルからまったく違うということになる。アンケート結果や受講者からのメールを見ても、実際の出土品によって復元作業ができたということで好評であったが、他会場の受講者にとってはどうだったか、後続のオープンカレッジの“モデル”として継承可能かどうかという点では若干の疑問が残る。また陶器片とはいえ文化財であるため、できれば配送は避けたいところである。

これらを考慮すると、両会場にそれぞれ専門家がいる場合には、各地域の教材をそれぞれ用いて講座を進めるという方法が考えられる。実際今回も講師と受講者との質疑にとどまらず、補助講師による香川県における出土陶器の報告も織り込まれ共同研究会の趣があった。講師と補助講師に面識があったことも偶然わかり、事前に連絡を取り合えばより効果的なコラボレーションが可能だったかもしれない。こうした状況になれば、一般視聴会場の受講者にとってもより一層意義ある講座となると思われる。また、香川会場受講者からのメールの中で提案されたことであるが、復元用の模型教材を作成しセットで各地に送るといった選択肢も考えられる。その場合には製作物を持って帰ることもできるし、貴重な資料の安全性のためにも教材開発を検討すべきであろう。

③一般視聴会場の補助スタッフの問題 エル・ネット「オープンカレッジ」の場合、各受信会場に生身の講師がいるわけではなく、受講者にとっては視聴会場でどのようなサポートがされるかが重要になってくる。今回一部の指定会場にしか視聴コーディネーターを配置することができず、受講者に有効なサポートをすることができなかった。人数が少なく業務が多い施設職員に過大な負担をかけることも難しいとすれば、エル・ネット受信施設を舞台に活動する講師補助・受講補助者のボランティアを育成することが検討されてよい。企画会議に参加した受講者代表からもこのことの重要性の指摘があった。オープンカレッジ有料化に関する検討もされているが、こうした講師補助ボランティアには有料化後も受講の便宜をはかったり、エコマネーを導入したりという方策も考えられるだろう。

### (3) アンケート結果から

実施されたアンケート結果をいくつかの論点にしぼり概観しておく。

#### ①受講理由

受講理由は、「テーマに興味あり」が両会場とも圧倒的で、次いで香川では「実技・実習があるから」、静岡では「衛星利用の新スタイル」「大学講座が近くで受講可」が多い。

#### ②放送内容について

映像・音声・内容とも第1回より第2回の方が良い評価を得た。これについては、収録・編集・調整に時間をかけられたこと、講義中心から実習中心になったこと、ライブによる質疑応答が取り入れられたことなど複合的な理由が考えられる。

#### ③eラーニングステージについて

これについてはまだ認知度が低いですが、両会場とも興味のある受講者が多かった。

#### ④有料制について

有料でも受講したいと答えた受講者は、ライブによる質疑があり出土品の教材が用意された香川会場では3分の2を超えた。ただ、受講料は1000円以内がほとんどであった。

受講したいと答えた人の希望するサービスは、「より充実したテキスト」が多く、「質疑応答の機会」「有名講師による講義」が続く。有料なら受講したくないと答えた人も、「大学の正規の単位」「資格取得」の付加サービスがある場合は受講したいと答え、「より充実したテキスト」の場合を上回っている。

他項目および詳細については、添付資料のアンケート結果を参照してほしい。

## 資料1. 広報用パンフレット

エル・ネット「オープンカレッジ」  
『やきもの考古学』開講のお知らせ

平素より静岡大学公開講座等にご参加いただき、まことにありがとうございます。  
さて、みなさんは新しい大学公開講座のかたち、エル・ネット「オープンカレッジ」をご存じですか。  
エル・ネット「オープンカレッジ」とは、衛星回線を使った大学公開講座。受信設備のある公民館や図書館、文化センター等、全国の社会教育施設で気軽に受講できます。  
(詳しくは同封の資料をご覧ください。)

本年度は、静岡大学も「やきもの考古学」(講師：柴垣勇夫教授)で参加。静岡大学キャンパスで開講している公開セミナー「きて見て静大・やきもの考古学」(全5回)の前半2回分を中心に番組を作成、衛星回線を用いて全国放送します。  
放送日程は下記の通り、  
第1回：平成15年2月8日(土) **15:00～16:50** 「日本陶磁史概説」  
第2回：平成15年2月22日(土) **15:00～16:50** 「古代・中世の陶器とその復元」  
※2回目は静岡県総合教育センターと香川県のスタジオを中継、生放送で質疑応答も行います。  
(本年度文科省モデル事業：静岡県教委社会教育課との共同事業)  
受講料は、**無料**です。  
下記の施設のご協力を得て、県内でも受講できるようになりました。

・静岡県立中央図書館	静岡市谷田53-1
・静岡県総合教育センター	掛川市富部456番地
・修善寺町立中央公民館	田方郡修善寺町小立野66-1
・雄踏町文化センター	浜名郡雄踏町宇布見5427

(各施設の定員・テキスト準備などの関係もありますので、お問合せ・お申込みは、静岡大学生涯学習教育研究センター Tel&Fax: 054-238-4817までお願いします。)  
受講は2回のうち一回だけでもかまいません。お誘い合わせの上、みなさまお気軽にご参加ください。

※また、本講座はインターネット上で展開する自主学習システムeラーニングステージにも参加。予告編の閲覧、予習・復習、確認テストなどが可能です。  
関連サイト：el-Net「オープンカレッジ」 <http://www.opencol.gr.jp/>  
eラーニングステージ <http://www2.opencol.gr.jp/start/index2.htm>

お問合せ・お申込み先：  
静岡大学生涯学習教育研究センター  
Tel&Fax: 054-238-4817  
E-mail: [lckabe@ipc.shizuoka.ac.jp](mailto:lckabe@ipc.shizuoka.ac.jp)

el-Net Open College エル・ネット オープンカレッジ

# エル・ネット「オープンカレッジ」 News

VOL.13 2002.12.16 発行

発行：高等教育情報化推進協議会 東京都港区虎ノ門1-17-1 祝華美ビル内 TEL：03-3591-2186 URL http://www.opencol.gr.jp

静岡大学「やきもの考古学」e-ラーニングステージ 収録現場をたずねて

- ①「やきもの考古学Ⅰ（日本陶磁史概説）」 2月8日（土）15：00～16：50  
 ②「やきもの考古学Ⅱ（古代・中世の陶器とその復元）」 2月22日（土）15：00～16：50 **LIVE**  
 講師：柴垣 勇夫（静岡大学教授）

**◆講座のしくみ**

この講座は、静岡大学生涯学習教育研究センターの公開講座「きて見て静岡」「やきもの考古学」（全5回）のうち、第1、2回目の講義をエル・ネット「オープンカレッジ」で放送します。この講座では陶器の復元作業が実習として行われますが、今回は香川県の受講生との間で遠隔双向質疑がライブ放送されます。このライブ放送で、香川会場の受講生の皆さんに、静岡会場にいらっしゃる柴垣勇夫先生のご指導のもとで、陶器の復元作業を実習していただくというものです。

また、この講座は今年度の新しい試みであるe-ラーニングステージのサイトも併せて用意されます。このe-ラーニングステージは、インターネットのホームページサイト(<http://www2.opencol.gr.jp/>)で、事前学習をしたり、学習内容の簡単なクイズを試したりできるものです。会員登録をすれば、だれでも無料で利用することができます。

今回は、このe-ラーニングのためのコンテンツ作りの現場取材し、担当の柴垣先生に講座についてのお話を伺いました。

**◆e-ラーニングのコンテンツ作り**

e-ラーニングのコンテンツは、「予告編（講師の先生による講義）」「映像ファイル」「課題」「簡単クイズ」「放送日程のご案内」などで構成されてい



ます。受講者は学習を進める中で疑問や質問があれば、「Q&A」から講師に質問したり、「学習資料室」に掲載されている資料を参照したりすることができます。

まず、「映像ファイル」の素材となるビデオを撮ります。今回は、講義の最大の目玉である「古代・中世の陶器の復元作業」の流れを先生に実演していただきました。先生は、陶器の破片（実物）にエポキシパテという粘土状の接着剤を巧みに貼り付けていきます。これには、少しコツが必要のようです。その後、10分程度そのまま乾かしたらサンドペーパーで削ってできあがりです。この貴重な復元作業の様子を、ぜひ「映像ファイル」をご覧ください。

次に、「予告編」の作成です。デジタルカメラで先生の顔写真や復元作業の様子、陶器の写真を取ります。そして、その写真を素材としながら、パワーポイントで画面を作成していきます。それから、できた画面に音を入れます。

先生は、液晶一体型タブレットの画面を見ながら、ペンタッチで、黒板を指示棒で示すのと同じように話をしていきます。声とペンタッチのタイミングを合わせて講義画面を作成していくのは、何回か練習が必要ですが、すぐ慣れます。この「予告編」では、土器・陶器・磁器といった様々な「やきもの」の種類やそれらの大まかな時代の変遷を知ることができます。

最後に、先生に「課題」と「簡単クイズ」を作成していただきました。また、「学習資料室」用の資料もいただきました。3時間程の作業で、e-ラーニングのコンテンツが完成です。このような簡便に作成できる教材が、これからのe-ラーニングでは主流になってくるのでしょうか。

**◆講座の内容**

一片の陶片といえども、それは貴重な文化遺産なのです。陶器の復元作業では、その陶片から実際に作った昔の人の気持ちを思い描くことができるかもしれません。今回、実際に復元作業を行えるのは静岡大学公開講座の受講生と香川会場の受講生だけです。この講座をきっかけに様々な「やきもの」に興味を持っていただけることでしょうか。興味のあるすべての方が楽しめる講座なので、中学生でも大丈夫です。そして、学習をより楽しく深めていくためにも、e-ラーニングステージもぜひご活用ください。

衛星回線で公開講座  
8、22日に静岡  
静岡大は衛星回線を使った大学公開講座「エル・ネット」オープンカレッジ

「やきもの考古学」を全国放送する。県内では受信設備のある県立中央図書館（静岡市谷田）など四カ所として八日と二十二日所で受講できる。エル・ネット「オープンカレッジ」は平成十二年（全五回）の初回と二回目の講座を録画して編集し、それぞれ八、二十二日に放送する。

講座の内容は八日が「日本陶磁史概説」、二十日は「古代・中世の陶器とその復元」。放送時間はいずれも午後三時から四時五十分まで。二十二日は、文部科学省のモデル事業として、県総合教育センター（掛川市富部）と香川県内のスタジオを結び、センターの柴垣教授とスタジオの受講者との質疑、応答の模様を生中継する。県内で受講できるのは県立中央図書館、県総合教育センターのほか修善寺町立中央公民館、雄踏町文化センターの四カ所。受講は無料。受講の申し込み・問い合わせは静岡生涯学習教育研究センター（電話054（238）4817）へ。

(平成15年2月23日付)

### 衛星回線使い 講座全国放映

静大、生中継で講義も  
静岡大は二十二日、衛



香川県の会場との生中継で、受講生の  
質問に答える柴垣静岡大教授(右)  
＝掛川市の県総合教育センター

星回線を使用した公開講  
座「エルネット・オーブ  
ンカレッジ」を開き、全  
国数百カ所の公民館や図  
書館などの施設で同時放  
映した。  
エルネットは、文部科  
学省の外部団体が平成十  
一年から展開している衛  
星回線による大学公開講  
座で、現在全国の五、六  
十校の大学が参加してい

る。同大の参加は今回が  
初めてで、一・二月に同  
大で開いた公開講座「や  
きもの考古学」を編集し  
た番組を放映すること  
になった。

県内では、県総合教育  
センター(掛川市)、県  
立中央図書館(静岡市)、  
修善寺町立中央公民館、  
雄踏町文化センターの四  
カ所で放映。古代・中世  
の陶器の復元作業のポイ  
ントを約一時間で紹介し  
た。この日は特別に県総  
合教育センターと香川県  
高松市の同県教育センタ  
ーを中継で結び、公開講  
座で指導を担当した同大  
の柴垣勇夫教授が直接、  
香川県の会場の受講生と  
生放送で質疑応答を行っ  
た。



イ. 実技・実習場面のある講座だから	( 0 ) ( 7.7 ) (38.9) (15.1)
ウ. 大学公開講座を近くで受講することが少ないから	(27.3) (30.8) ( 5.6) (20.8)
エ. 衛星を利用した新しいスタイルだから	(31.8) (23.1) ( 5.6) (20.8)
オ. インターネットと連動した講座だから	(18.2) ( 0 ) ( 5.6) ( 9.4)
カ. その他(県広報があった )	( 9.1) ( 0 ) ( 5.6) ( 5.7)

7】講座の開催曜日・時間・時間帯について

1) 開催曜日はいつがよいですか。	静岡Ⅰ	静岡Ⅱ	香川	全体
ア. 月～金の平日	(22.7)	(38.5)	(38.9)	(32.1)
イ. 土あるいは日	(63.6)	(61.5)	(50.0)	(58.5)
2) 開催時間帯はいつがよいですか。				
ア. 午前	(18.2)	(23.1)	(22.3)	(20.8)
イ. 午後	(59.1)	(69.2)	(66.7)	(64.2)
ウ. 夜間	( 4.5)	( 7.7)	( 5.6)	( 5.7)
3) 今回のテーマの場合、授業時間はどれくらいがいいですか				
ア. 1時間未満	( 9.1)	( 0)	( 0)	( 3.8)
イ. 1時間から2時間	(86.4)	(100)	(38.9)	(73.6)
ウ. 2時間以上	( 4.5)	( 0)	(55.6)	(20.8)

8】次回に受けるとしたらどんなテーマ・内容のものがよいですか。

(考古・歴史に関するもの9、やきものシリーズ 4、教育問題、心理、美術、医療、世界情勢)  
(実習もの3)

9】放送についてはいかがでしたか。

1) 映像について	静岡Ⅰ	静岡Ⅱ	香川	全体
ア. よい	( 4.5)	(23.1)	( 5.6)	( 9.4)
イ. 普通	(31.8)	(23.1)	(22.2)	(26.4)
ウ. 工夫が必要	(45.5)	(53.8)	(55.6)	(50.9)
2) 音声について				
ア. よい	( 4.5)	(30.8)	( 5.6)	( 9.4)
イ. 普通	(30.8)	(53.8)	( 0)	(11.3)
ウ. 工夫が必要	(63.6)	(15.4)	(83.3)	(58.5)

10】エルネットを使った大学公開講座は、通常の公開講座・講演会などと比べていかがですか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください。)

	静岡Ⅰ	静岡Ⅱ	香川	全体
ア. 大学公開講座が近所で受講できてよい	(45.5)	(61.5)	(55.6)	(52.8)
イ. 講師の話が直接聞きたいので物足りない	(45.5)	(53.8)	(27.8)	(41.5)
ウ. 質疑応答がしにくいので不満が残る	(18.2)	(30.8)	( 5.6)	(17.0)
エ. 全国に流れる公開講座が受講できるのでよい	(40.9)	(38.5)	(27.8)	(35.8)
オ. その他(実技等とあわせてもらえると嬉しい)	( 4.5)	( 0)	( 5.6)	( 3.8)

11] エルネットを使った大学公開講座は、教育テレビなどの放送番組と比べていかがですか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください。)	静岡 I	静岡 II	香川	全体
ア. 公民館・図書館などで他の受講生と一緒に受講できてよい	(54.5)	(38.5)	(50.0)	(49.1)
イ. FAXや電子メールなどで質問ができるのでよい	(9.1)	(30.8)	(11.1)	(15.1)
ウ. 教育テレビの番組ほど洗練されていないので不満	(36.4)	(30.8)	(22.2)	(30.2)
エ. その他	(9.1)	(7.7)	(11.1)	(9.4)
(テキストがあってよい、参加型でよい、自宅で受けたい)				

12] 受講してみて質問があるとき、どういった方法でできればよいと思いますか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください。)	静岡 I	静岡 II	香川	全体
ア. FAX	(40.9)	(15.4)	(27.8)	(30.2)
イ. 電子メール・電子掲示板	(9.1)	(23.1)	(38.9)	(22.6)
ウ. 生放送で講師のいる場所とやりとりをする	(50.0)	(61.5)	(33.3)	(47.2)
エ. その他(手紙、電話)	(4.5)	(0)	(11.1)	(5.7)

13] 今回の講座は「eラーニングステージ」という自習プログラムに参加し、受講前にインターネット上で予告編を見たり説明を聞いたり予習をしたりできます。

1) これについてはご存じでしたか。	静岡 I	静岡 II	香川	全体
ア. 知っていた	(31.8)	(30.8)	(0)	(20.8)
イ. 知らなかった	(54.5)	(69.2)	(83.3)	(67.9)
2) 利用しようと思いますか。	静岡 I	静岡 II	香川	全体
ア. 興味がある	(54.5)	(69.2)	(61.1)	(60.4)
イ. 興味がない	(0)	(15.4)	(11.1)	(7.5)

14] 今回の講座の感想をお聞かせください。

音声不良で折角の講座が惜しい／内容はよいが映像・音声の工夫が必要／細部をよく見たかった／楽しかった／実習とライブがありよかった／作業時間をもっと／埋文センターの方の力が大きかった／エルネットをやったのか？文化財センターの人に教わったのか？／土地のものがあればよかった／カラー映像だと良かった／テストケース／作陶家として歴史を知らなかったことを反省／参考になった／予習できればよかった／出土品の復元過程がわかった／初めての経験／カメラの前だとうまく話せない

15] 今回のような機会があったら、また参加したいと思いますか。

	静岡 I	静岡 II	香川	全体
ア. 参加したいと思う	(77.3)	(76.9)	(88.9)	(81.1)
イ. 思わない	(0)	(7.7)	(0)	(1.9)
ウ. その他	(13.6)	(15.4)	(0)	(9.4)
(内容・場所による／種目・段階によっては)				

ご協力ありがとうございました。

[追加アンケート・2回目のみ]

エル・ネットオープンカレッジ アンケートⅡ

Q1 「放送番組」の進み方はあなたにとって速かったと思いますか、遅かったと思いますか？	静岡Ⅱ	香川	全体
1 遅かった	( 0 )	( 0 )	( 0 )
2 どちらからというが遅かった	( 0 )	( 5.6 )	( 3.2 )
3 適当だった	(92.3)	(88.9)	(90.3)
4 どちらかというと速かった	( 0 )	( 0 )	( 0 )
5 速かった	( 0 )	( 0 )	( 0 )
Q2 放送された内容で聞き逃したと思う箇所はありましたか？	静岡Ⅱ	香川	全体
1 まったくなかった	(38.5)	(11.1)	(22.6)
2 少しあった	(46.2)	(38.9)	(41.9)
3 かなりあった	( 7.7 )	(33.3)	(22.6)
Q3 放送された内容で再視聴したい箇所はありますか？	静岡Ⅱ	香川	全体
1 まったくない	(23.1)	( 0 )	( 9.7 )
2 少しある	(53.8)	(72.2)	(64.5)
3 かなりある	( 0 )	(22.2)	(12.9)
Q4 放送で使われた各種演出（字幕やパネル、取材映像）は、講義内容に合っていましたか？	静岡Ⅱ	香川	全体
1 まったく合っていない	( 7.7 )	( 0 )	( 3.2 )
2 どちらかという合っていない	( 7.7 )	(44.4)	(29.0)
3 どちらでもない	(15.4)	( 5.6 )	( 9.7 )
4 どちらかという合っている	(15.4)	( 5.6 )	(29.0)
5 よく合っていた。	( 7.2 )	(22.2)	(16.1)
Q5 放送中に登場した講師や出演者の話し方について、どのように感じましたか？			
(話し方)	静岡Ⅱ	香川	全体
1 聞き取り難かった。	( 7.7 )	(44.4)	(29.0)
2 どちらかという聞き取り難かった	( 7.7 )	(38.9)	(25.8)
3 聞き取れた。	(61.5)	( 0 )	(25.8)
4 よく聞き取れた。	(15.4)	( 0 )	( 6.5 )
(内容)	静岡Ⅱ	香川	全体
1 わかり難かった。	( 0 )	(38.9)	(22.6)
2 どちらかというわかり難かった	(30.8)	(11.1)	(19.4)
3 わかり易かった	(46.2)	(33.3)	(38.7)

Q6 画面が単調だと感じましたか	静岡Ⅱ	香川	全体
1 まったく感じなかった	(30.8)	(27.8)	(29.0)
2 少し感じた	(53.8)	(50.0)	(51.6)
3 単調だった	( 7.7)	(16.7)	(12.9)

Q7 日ごろ、教養・教育番組（テレビ）をどれくらいみていますか？ 印象でお答えください。

	静岡Ⅱ	香川	全体
1 まったく見ない	( 7.7)	( 0 )	( 3.2)
2 時々見る	(53.8)	(50.0)	(51.6)
3 よく見る	(15.4)	(38.9)	(29.0)
4 連続して見ている番組がある	(15.4)	( 0 )	( 9.7)

Q8 「視聴された放送番組」について、良かった点や改善点など気づいたことがありましたら、以下の欄にお書きください。

8-1 良かった点

(香川) 参考になる資料が多い／生の講義はよかった／先生にライブ質問ができたこと／実際にでたものにふれたこと／前向きで面白い取り組みだと思う／放送が聞き取り難かったのを柔軟に対応してもらって実技に切り替えたところ

(静岡) 他の参加者に実習させたのでわかりやすかった／授業内容についてはよかった／中継を結び質疑応答の時間をとったところ／知らない部分を明確にできる

8-2 改善点

(香川) 音声が悪かった・聞き取りにくかった（同様意見多数）／映像・音声とも一工夫が必要（同様意見多数）／内容をわかりやすくする工夫が必要、講義内容を理解させるという視点で番組作りを／全体的に番組の作り方がまずい／もっと映像によって学べるはず

(静岡) 作業の様子をズームアップしてほしかった／テキスト内容の充実／カラー映像の方がよい

8-3 その他

(香川) できれば連続シリーズが望ましい／放送大学とは違うのか？／色々なジャンルに展開していけばと思う／誰もが身近なところで学ぶためのものだと思う。人数が少ない。

(静岡) もう少し大画面が良い／実習者を1, 2名にして復元に時間をかけてほしい／Q&Aは不必要

Q9 本日の講座のような、衛星通信を利用した遠隔講座について、受講に際して受講料をが必要だとしたら、受講したいと思いますか。

	静岡Ⅱ	香川	全体
1 受講したいと思う。	(53.8)	(66.7)	(61.3)
2 受講したいと思わない。	(15.4)	(22.2)	(19.4)

(1 と回答した場合)

1-1 受講料は1回（100分程度の講義）あたり、いくらぐらいが妥当と思われますか。

a. 500円以下	b. 1,000円	c. 1,500円	d. 2,000円	e. 2,500円	f. 3,000円以上
( 12.5 )	( 31.3 )	( 3.1 )	( 6.3 )	( 0 )	( 0 )

1-2	どのようなサービスを希望しますか。	静岡Ⅱ	香川	全体
a.	著名人の講師による講義が提供される。	(30.8)	(27.8)	(29.0)
b.	講師との質疑応答の機会が確保される。	(23.1)	(33.3)	(29.0)
c.	より充実したテキストが提供される。	(46.2)	(44.4)	(45.2)
d.	修了証の発行や生涯学習単位の認定が行われる。	(15.4)	(11.1)	(12.9)
e.	資格を取得する際に利用できる。	(15.4)	( 0 )	( 6.5)
f.	大学の正規の単位が趣得できる。	( 7.7)	(22.2)	(16.1)
g.	その他	(15.4)	( 0 )	( 6.5)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各会場ごとに中継を結び、質疑応答の時間がもたれる</li> <li>・聞いただけでは身につかないので実技を付け加えてもらいたい</li> </ul>			

(2と回答した場合)

2-1 どのようなサービスが付加されれば、受講料を支払っても良いと思いますか。

		静岡Ⅱ	香川	全体
a.	著名人の講師による講義が提供される。	(23.1)	(11.1)	(16.1)
b.	講師との質疑応答の機会が確保される。	(23.1)	( 0)	( 9.7)
c.	より充実したテキストが提供される。	(38.5)	(11.1)	(22.6)
d.	修了証の発行や生涯学習単位の認定が行われる。	(15.4)	(11.1)	(12.9)
e.	資格を取得する際に利用できる。	(23.1)	(22.2)	(22.6)
f.	大学の正規の単位が趣得できる。	(30.8)	(27.8)	(29.0)
g.	その他	( 0)	( 0)	( 0)

2-2 上記のようなサービスが付加された場合、受講料は1回(100分程度の講義)あたり、いくらぐらいが妥当と思われますか。

a. 500円以下	b. 1,000円	c. 1,500円	d. 2,000円	e. 2,500円	f. 3,000円以上
( 3.1 )	( 18.8 )	( 6.3 )	( 3.1 )	( 3.1 )	( 0 )

以上で終わりです。長時間、ご協力ありがとうございました。

## (6) 愛媛県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業報告

愛媛県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会  
(愛媛県教育委員会生涯学習課)

### 1. 趣 旨

愛媛大学の公開講座「街がはぐくむ演劇、演劇がはぐくむ街」を県内の住民に幅広く提供するため、エル・ネット（教育情報衛星通信ネットワーク）を活用した効率的な遠隔教育の実施方法を考察した。

### 2. 実施機関

愛媛県エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業実施委員会を設置し、事務局を愛媛県教育委員会生涯学習課に置いた。委員会は、エル・ネット受信施設関係者3名、V S A T局である県総合教育センター1名、受信施設での受講者代表3名、公開講座の講師1名及び愛媛大学1名、合計9名で構成した。第1回実施委員会では、事業の内容や実施方法、広報活動等について共通理解を図り、第2回実施委員会では、受講施設の実施状況の報告の後、今後のエル・ネット「オープンカレッジ」の方向性等について検討した。

### 3. 概 要

愛媛大学では、公開講座「街がはぐくむ演劇、演劇がはぐくむ街」（全3回）を大学で独自収録し、愛媛県総合教育センターV S A T局から配信した。当事業においては、受講者を募り、県内3受講施設（新居浜市立別子銅山記念図書館、愛媛県立中央青年の家、内子町内子東自治センター）において、モデル的に講座を開催したものである。1回目・2回目は、講座の放送終了後、受講者に質問票を記入していただき、その内容を集計し、最終日までに、講師の方で予め回答を準備することができるようにした。3回目には、講座の録画放送中からF A X等で質問を受付け、講座終了後ライブ放送で、前回までの質疑内容と併せてリアルタイムに講師が回答した。なお、愛媛県立中央青年の家では、質疑の終了後、文部科学省の担当者とチューター及び受講者10名で意見交換を行った。

#### (1) 受講講座と放送日時

☆ 第1回 平成14年12月6日（金）10：00～11：50

- レビューが生まれた街 —— 進化する演劇都市、宝塚 ——
- ブロードウェイ・ミュージカルの世界とニューヨーク

☆ 第2回 平成14年12月7日（土）15：00～16：50

○町民劇場の保存と地域づくり

○フランス演劇の舞台をめぐる ―― パリの劇場とアヴィニョンの演劇祭 ――

☆ 第3回 平成14年12月21日（土）15：00～16：35

○内子座（愛媛県内子町）とグローブ座（ロンドン）

○オペラとオペレッタの街、ウィーン

## （2）広報活動

各受講施設及び公民館等社会教育関係施設、市町村等にポスター200枚、チラシ2,000枚を配布し、広く一般に参加者を募集するとともに、各受講施設においては、施設利用団体へ積極的に参加呼び掛けを行ったり、地元の敬老会や女性団体へも働きかけを行ったりした。さらに、愛媛県ホームページへの参加者募集の掲載、報道機関へのお知らせなどの広報活動を行った結果、地元新聞に受講者募集の記事やモデル事業の実施状況の紹介が掲載された。

## （3）受講・通信体制

原則として、3回とも受講されることを目標としたが、一人でも多くの住民にエル・ネット「オープンカレッジ」に触れる機会を提供するため、1回のみ受講も認めることにした。なお、3回の講座を全て受講した方には、皆勤者として、閉講式の際、愛媛大学から修了証書を授与した。また、当日どうしても受講できない方がいる場合は、当日以外の日に受信施設で受講できるようにした。

最終日は、質疑応答がリアルタイムでの放送であったため、一本のファックスでは混雑し、モデル事業の進行に支障をきたすことが予想されたため、質疑受付は、講義終了後ではなく、講義中も随時受け付けることとした。

## （4）受講者数（延べ人数）と質問数

	別子銅山記念図書館	中央青年の家	内子東自治センター	合計
受講者数	46	68	48	162
質問数	14	17	6	37
皆勤者数	7	8	11	26

## 4. 本事業を振り返っての成果と課題

### （1）講座内容について

今回、愛媛大学公開講座「街がはぐくむ演劇、演劇がはぐくむ街」のテーマで6名の講師が講座を担当したが、講座内容に変化があり、各講師が自分の経験、考えを力説したことが受講者にも伝わった。アンケート結果から見ても、「講座の進み方の速さは、適当だった」「放送で使われた演出も合っていた」「話し方についてもよく聞き取れた」「講座の内容も分かりやすかった」という回答が最も多く、充実したテキストがあったため、講師

の話聞きながら講座内容を確認できたことによって、一層理解が深まったものと考えられる。また、受講者にとっては、エル・ネットがどのようなものであるのかを知るきっかけにもなったし、大学の講義の様子についても関心を持つことにもつながった。

一方、「画面が単調だったと感じましたか」という問いに対して、「単調だった」と感じた割合が高かった。今回の講座で使われた映像や写真、地図等は、「画像がきれいで、分かりやすい」という回答もあったが、著作権の問題はあるものの、さらに補助資料として、動画や音楽、パネル等があれば、意欲的な姿勢で受講でき、講座内容の理解を助けることにつながったものと考えられる。

## (2) 広報のあり方について

受講者の募集については、ポスター・チラシ等を受講施設や公民館、市町村等に配布したが、アンケートの結果を見ると、「公開講座を何によって知りましたか」という問いに対して、「知人」が多く、ポスター・チラシによる周知効果は十分とは言えないことが分かる。市町村の広報誌や公民館だよりへの掲載、さらには全戸配布のフリーペーパーを活用した情報提供なども実施していくことが必要と考えられる。また、「知人から」の情報が多いことから、エル・ネットの受信施設のよさを機会あるごとにPRをしていくことも大切である。

## (3) 受講体制について

今回のモデル事業の受講者は、平均すると、各受講施設1日あたり15～20数名であり、その構成は、20歳代から80歳代と年齢層も幅広く、性別にもあまり片寄りは見られない。受講者の受講の動機を見てみると、「一般教養を高めるため」「興味のあるテーマであるため」がほとんどとなっている。

また、皆勤者数が26名というのは、講座実施の時間的な設定とも関連している。

1回目の講座が平日の午前で、2回目・3回目の講座は土曜日の午後という時間設定であったため、参加が難しいとの声も寄せられた。アンケートの結果を見ても、講座の実施希望の時間帯は、土曜日、日曜日が最も多いという結果が出ていることから、今後、受講者が参加しやすい時間設定を考えていくことが大切である。

## 5. エル・ネット「オープンカレッジ」の今後について

今回の受講者は、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用した遠隔講座の重要性についての理解を持つきっかけとなったが、多くの人には、十分周知できていないのが現実である。そこで、まず、各受信施設において、地元の広報誌等を使って、広くエル・ネット「オープンカレッジ」の情報を提供し、視聴の機会を設け、このシステムの有効性を理解してもらうことが大切である。そのためには、今回の講座のビデオを地域での研修講座の一コマとして活用したり、個人への貸し出しを行ったりすることも必要である。

今後、住民がエル・ネット受信施設に足を運び、講座を視聴することを推進していくためには、一方通行の講義から、双方向システムにしていくことが重要である。



<アンケート集計表>

総回答数 (99)

1 性別 1 男 (45) 2 女(54)

2 年齢

20代 (13)	30代 (12)	40代 (29)	50代 (17)
60代 (12)	70代 (12)	80代 (1)	無回答 (3)

3 職業

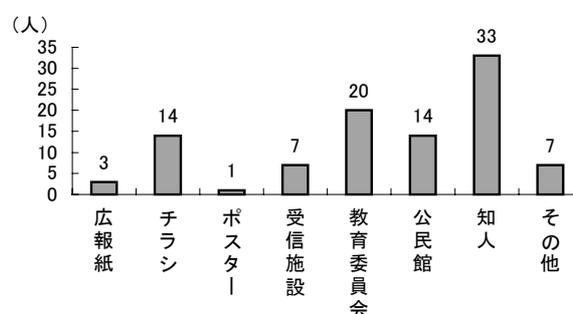
農林漁業 (5)	自営業 (3)	勤め人 (45)	主婦 (16)	その他 (30)
----------	---------	----------	---------	----------

4 受講の動機について (1つだけ○)

1) 一般教養を高めるため (46)	2) 職業上の専門知識を得るため (1)
3) 興味のあるテーマであるため (33)	
4) その他【公民館の呼びかけ、内容の確かめ、友人の勧め等】	

5 今回の公開講座が開かれることを何によって知りましたか。(1つだけ○)

1) 広報誌 (3)	2) チラシ (14)	3) ポスター (1)	4) 受信施設 (7)
5) 教育委員会 (20)	6) 公民館 (14)	7) 知人 (33)	8) その他 (7)【老人会等】



6 放送された講座の進み方の速さはどうでしたか。

1) 遅かった (2)	2) どちらかというが遅かった (3)	3) 適当だった (83)
4) どちらかというが速かった (8)	5) 速かった (3)	

7 放送された講座内容で聞き逃したと思う箇所はありますか。

1) まったくない (37)	2) 少しある (54)	3) かなりある (5)	無回答 (3)
----------------	--------------	--------------	---------

8 放送された講座内容で再視聴したい箇所はありますか。

1) まったくない (58)	2) 少しある (35)	3) かなりある (1)	無回答 (5)
----------------	--------------	--------------	---------

9 放送で使われた演出（字幕やパネル、取材映像等）は、講義内容に合っていましたか。

- 1) まったく合っていない (2) 2) どちらかという合っていない (3)  
3) どちらでもない (17) 4) どちらかという合っている (39)  
5) よく合っていた (37) 無回答 (1)

10 講師の話し方について、どのように感じましたか。

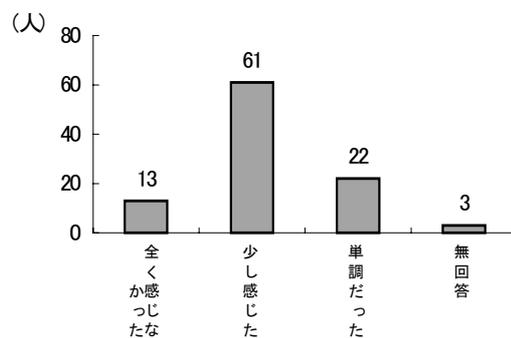
- 1) 聞き取りにくい (2) 2) どちらかという聞き取りにくい (4)  
3) 聞き取れた (58) 4) よく聞き取れた (35)

11 講座の内容について、どのように感じましたか。

- 1) 分かりにくい (7) 2) どちらかという分かりにくい (13)  
3) 分かりやすい (72) 無回答 (7)

12 画面が単調だと感じましたか。

- 1) まったく感じなかった (13) 2) 少し感じた (61)  
3) 単調だった (22) 無回答 (3)



13 日頃、教養・教育番組（テレビ）をどれくらい見ていますか。印象でお答えください。

- 1) 全く見ない (3) 2) 時々見る (74) 3) よく見る (16)  
4) 連続してみる番組がある (4) 無回答 (2)

14 視聴された番組について、良かった点や改善点など、お気づきの点をお書きください。

○ 良かった点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容・映像・資料に関して大変おもしろかった。</li> <li>・話し方が丁寧で見やすく、分かりやすかった。</li> <li>・録画なので、映像・音楽が編集されていて、生の講座とは違ったよさがあった。</li> <li>・宝塚では、歴史上のことが分かった。</li> <li>・質問に対し、講師からの話が聞け、双方向性の内容が盛り込まれている。</li> <li>・2つの内容が2名の方により講義が行われ、変化があり、休憩をとりながらの進行でよかった。</li> <li>・臨場感があってよかった。</li> <li>・専門的なテーマについて、より高度な知識を得ることができる方法があることを知った。</li> <li>・専門的内容を短時間で要点をおさえた学習ができる。</li> <li>・劇場に足を運ぶことは、ほとんどないので、講座を通してこういう世界に触れることができよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間配分やテーマ構成が適当で飽きなかった。</li> <li>・自分の経験・考え・自信が力説されていた。</li> <li>・講師の話し方は、明瞭で、はぎれもよかった。</li> <li>・テキストが丁寧に作成されていて、ためになった。</li> <li>・大学の講義の様子がわかった。</li> <li>・かなり凝縮した内容にされているのが分かった。</li> <li>・資料に基づいていたので、メモをとりやすかった。</li> <li>・内子座について、身近で分かりやすかった。</li> <li>・映像等が多く、画像がきれいだった。</li> <li>・写真や地図が多く分かりやすかった。</li> <li>・フランス観劇が少し分かった。</li> <li>・歴史・舞台のつくり、裏側のしくみなど説明がよくされていた。</li> </ul>
--	---

○ 改善点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容に応じた紹介画像を多く取り込むなど、編集に工夫がほしい。</li> <li>・動画による資料映像があれば、より理解が深まった。</li> <li>・ミュージカルの話に、映像も音楽もなかった。</li> <li>・聞き手の雰囲気講師に伝わらないのか単調になりやすい。</li> <li>・資料に建物・地図などたくさん載せて欲しい。</li> <li>・プロジェクターが暗く、画面が見えにくかった。</li> <li>・もう少し動きがあればよい。</li> <li>・パネルをもっと使った方が聞きやすい。</li> <li>・放送大学のようにスカパーフェクトTVとかでの提供を検討してほしい。</li> <li>・受講する者が講義内容を選択できたらもっと興味をもって受講できた。</li> <li>・学生を前にした講義そのものの講座になれば、よりリアルな感じで受講できる。</li> <li>・録画の完璧さよりは、生出演の方が楽しめる。</li> <li>・講師の一方通行だけに、もっと写真がほしい。</li> <li>・マイクが近く、講師の息つぎの音が気になった。</li> <li>・テキストを読むだけであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字資料映像の字が小さすぎる。</li> <li>・画面が単調だった。</li> <li>・音声に少しノイズが入る。</li> <li>・講師の話のテンポが速い。</li> <li>・ボードや資料による変化があれば見やすい。</li> <li>・休憩時間を10分は欲しい。</li> <li>・ビデオのつなぎ目で録音のレベルが異なっていた。</li> <li>・写真・VTR等を活用して、目に訴えた方がよい。</li> <li>・地図を使った説明の時に、説明されている箇所とカメラワークが部分的にずれていた。</li> <li>・講師は座って講義して欲しい。</li> <li>・別表がテキストにも印刷されていると、帰宅後も味わえる。</li> <li>・事前にテキストを読んでおけば、より理解できる。</li> <li>・テーマに合った関係者との対話場面を流すとよい。</li> <li>・インタビューの一部を本人の声と表情で伝える。</li> <li>・オペラのあらすじについての説明が少し長すぎた。</li> </ul>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは、ポイントを絞ってほしい。</li> <li>・ミュージカルなので、少し音楽を入れてもよかった。</li> <li>・映像が手持ちビデオの撮影のため、揺れて見づらい。</li> <li>・画面は大きい方がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連映像が見たかった。その方が理解を助ける。</li> <li>・テキストに書き込めるよう余白がもう少しほしい。</li> </ul>
---	---

○ その他

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘッドホンでの受講を希望する。</li> <li>・今の時代決められた時間に放映するのではなく、インターネット等で受講希望者が希望する講義を希望する時間に受講できるようにすべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想していたより興味のある話だった。</li> <li>・テロップや文字を下側に出すと理解しやすい。</li> </ul>
--	---

15 本日の講座のような、衛星通信を利用した遠隔講座について、受講に際して受講料が必要だとしたら、受講したいと思いますか。

1 受講したいと思う。(30)	2 受講したいと思わない。(62)	無回答(7)
-----------------	-------------------	--------

(1と回答した場合)

1-1 受講料は1回(100分程度の講義)あたり、いくらぐらいが妥当と思われますか。

a. 500円以下(16)	b. 1,000円(10)	c. 1,500円(0)	d. 2,000円(4)
e. 2,500円(0)	f. 3,000円以上(0)		

1-2 どのようなサービスを希望しますか。

a. 著名人の講師による講義が提供される。(23)
b. 講師との質疑応答の機会が確保される。(8)
c. より充実したテキストが提供される。(11)
d. 修了証の発行や生涯学習単位の認定が行われる。(2)
e. 資格を取得する際に利用できる。(10)
f. 大学の正規の単位が取得できる。(8)
g. その他(0)

(2と回答した場合)

2-1 どのようなサービスが付加されれば、受講料を支払っても良いと思いますか。

a. 著名人の講師による講義が提供される。(30)
b. 講師との質疑応答の機会が確保される。(10)
c. より充実したテキストが提供される。(12)
d. 修了証の発行や生涯学習単位の認定が行われる。(3)
e. 資格を取得する際に利用できる。(13)
f. 大学の正規の単位が取得できる。(9)
g. その他(0)

2-2 上記のようなサービスが付加された場合、受講料は1回（100分程度の講義）あたり、いくらぐらいが妥当と思われますか。

a. 500円以下 (22)	b. 1,000円 (27)	c. 1,500円 (3)	d. 2,000円 (5)
e. 2,500円 (0)	f. 3,000円以上 (0)	無回答 (5)	

《今後の公開講座について》

16 実施希望の時間帯について

1) 月～金曜日の午前 (15)	2) 月～金曜日の午後 (16)
3) 月～金曜日の夜間 (19)	4) 土・日曜日 (34)

17 エル・ネットで学びたい分野について（興味のある分野に○を記入してください。

（複数可）

分 野	内 容 例	回答数
スポーツ	実技の指導を中心としたもの	18
趣 味	美術・工芸・園芸・書道・音楽等	54
語 学	外国語講座等	27
郷 土	地域をテーマに選んだもの	18
家庭生活	家庭生活に関するもの	8
健康保健	「心の健康」「家庭看護」等、健康・保健に関するもの	25
一般教養	上記以外の文学、教育、経済、科学等に関するもの	39
専門知識	コンピュータプログラミング等の専門的技術、職業上役立つ専門的知識	16
そ の 他	その他興味のあるもの（自然環境 野外活動）	4